安富町魅力発信紙

やすとみびより

vol.6



雨に映える紫陽花の季節
歴史深い安志加茂神社を訪ねた。

LOOK!
やすとみびより
Website & Instagram
随時更新中！

Website　Instagram

2021年7月発行
発行者：地域おこし協力隊
白井 千夏

※取材時は感染症対策に万全を期しております。取材をさせて頂く皆様には撮影時の一瞬のみマスクを外して頂きました。

安志加茂神社・安志稲荷神社

朱色が鮮やかな稲荷橋、大提灯と大鳥居を潜るとそこは古より安富町の人々に親しまれてきた安志加茂神社・安志稲荷神社。今回は宮司の真田慶樹さんにお話を伺いました。

安志加茂神社(▶写真右上)の建つ安富町安志は、昔は"安志庄(あんじのしょう)"と呼ばれ京都・上賀茂神社の荘園(しょうえん)でした。神社にはその分霊「別雷神(わけいかづちのかみ)」が奉られており、その字の通り雷の神様ですが、安富地域を守ってきた神様でもあります。

「当社の創立年代は不詳ですが、歴史を調べると1184年/源頼朝下文(くだしぶみ)、1185年/後白河法皇院庁牒(ちょうちょう)が安志加茂神社に関しての現存する最古の記述です。その記述内容から推測すると、平安末期源平の時代よりもずっと以前から荘園鎮守として、また安富町を守護する神様として人々に慕われ崇敬(すうけい)されてきた由緒ある神社であると言えます」と真田宮司が教えてくれました。









▲写真左下：手水舎の水盤に浮かべられたあじさい。キラキラと光る水面に鮮やかな青色が清涼感を与えてくれました。▲写真下中央：加茂神社へと向かう参道には大きな杉木が立ち並んでいます。「杉木が関係しているのか、昔から"神社には雷が落ちるけれど村には落ちない"という言伝えがあるそうです」と真田宮司。
▲写真右下：立派な渡廊下で繋がれた加茂神社の拝殿と本殿。脇に立って見ると奥行きがありスケールの大きさが感じられます。







▲写真上・右下：神社の参道を右に逸れ、朱色の鳥居と橋を抜けると安志稲荷神社が現れます。森の緑と朱塗りの社殿のコントラストが美しい場所です。
▲写真左下：可愛らしい狐の石像も。安志稲荷神社に奉られているのは、「宇迦之御魂大神(うがのみたまのおおかみ)」という神様。
「稲を荷なうと書いて稲荷神社。稲はひとつの穂から沢山の実を付けることから転じて五穀豊穣や商売繁盛のご利益があるとされています」と真田宮司が教えてくれました。

夏越の大祓「茅の輪(ちのわ)くぐり」

6/30(水)に行われた夏越の大祓神事に伺いました。(▶写真右) 残り半年の息災を願ってくぐる"茅の輪"。神社責任役員さん達の手作りなのだそう。左右左と八の字に3度くぐることを初めて知りました。



真田宮司が選ぶ 安志加茂神社の見どころ3選！





1. 大提灯と大鳥居

神社の玄関口、象徴的な大鳥居と大提灯。中国自動車道を走行中に、あそこは何だろう？と気になった方が参拝に来られることも多いそう。(◀写真左)

2. あじさい園

境内にあるあじさい園。かつては北側の山もあじさい公園として親しまれていたそうです。真田宮司は「鹿の食害の影響で今はこの場所だけとなっていますが、これから整備をしてあじさいを増やし沢山の人に楽しんでもらいたい」と話してくれました。(▶写真右)





3. 干支飾り

昭和52年から40年以上続くお正月の名物行事。酒米"夢錦"の稲穂を一反分使用し、約1ヶ月かけて製作をするそう。「当社の干支飾りを眺めて干支文化に触れるキッカケにもなれば」と真田宮司が語ってくれました。(◀写真左)

information

安志加茂神社・安志稲荷神社
〒671-2401 兵庫県姫路市安富町安志407
TEL. 0790-66-3180
※大鳥居をくぐると駐車場があります。
最新情報はWebsiteやInstagramを御覧ください。

Website　Instagram

編集後記

梅雨の晴れ間、あじさいが勢いよく咲く頃に安志加茂神社を訪れました。なんと1000年近くに渡りこの神社が地域の人々の生活の中にあったのだということを教えて頂き、大変興味深く感慨深い気持ちになりました。取材にご協力を頂きありがとうございました。
四季折々に表情を変え、歴史情緒あふれる境内を歩いて、参拝に出かけてはみてはいかがでしょうか。